


郡山保健所 地域・職域連携推進会議 議題・結果等 (H19~H27)

	会議の議題内容	結果等
平成19年度	<p>議題</p> <p>1) 説明 医療制度改革における生活習慣病予防対策について ~今、働き盛り世代の健康づくりが必要なのか~ 郡山保健所長 山田全啓</p> <p>2) 斑鳩町をモデルに取り組んだ地域・職域健康づくりの報告</p> <p>3) 地域・職域連携推進協議会の役割について</p> <p>4) 情報交換</p> <p>5) 各市町村における平成20年度からの地域での総合的な生活習慣病対策について</p> <p>6) 今後の取り組み</p> <p>7) 講評 奈良県立医科大学地域健康医学教室 教授 車谷 典男 氏</p> 	<p>◆38名参加 (H20.3.7)</p> <p>奈良医大 車谷教授講評(概要) 働き盛りの健康づくりを進めていく3つの鍵について</p> <p>①小規模事業所の健康管理を有効に進めていくには、地域の特性に合わせて、窓口(入口)があることが一番重要であり、商工会は入口の機能と情報提供の場という役割を担うことになる。</p> <p>②健診とあわせて「健康づくり」の考え方(発想)をもつことが重要である。健診+健康づくりを頭にいれる。できるだけ多様な事例を試みるのがコツである。受講者は自分に合ったメニューを選ぶ。これが長続きのコツである。</p> <p>③地域と職域をどうつないでいくか、職域から地域にでていくのは難しい。今は地域がどう職域に協力できるか、支援できるか、関わっていけるかを検討していかなければいけない。商工会を核に地域の資源をうまく活用することが重要である。労働者の健康の向上が地域に反映し、家族に安心、健康にもつながっていく。有機的にプログラムを構築し、コーディネートしていくのが保健所、保健センターの役割である。</p>
平成20年度	<p>議題</p> <p>1) 大和郡山市昭和工業団地をモデルに取り組んだ地域・職域連携事業の中間報告 ・平成20年度の取り組みの経過について ・職場の健康管理に関する状況調査の結果報告 ・従業員の生活習慣に関するアンケート結果報告</p> <p>2) 意見交換</p> <p>3) 今後の取り組み計画について</p> <p>4) 講評 奈良県立医科大学地域健康医学教室 教授 車谷 典男 氏</p>	<p>◆26名参加 (H20.10.20)</p> <p>奈良医大 車谷教授講評(概要) 調査の回収率が高かったことは、関係者の意識の高さと努力の賜である。最近是非正規労働者や外国人労働者、短時間労働者など雇用形態が多岐である。小規模事業所は</p> <p>①事業主がキーパーソンで強いリーダーシップで動くので、事業主への意識付けが重要となる。</p> <p>②地域密着なので、地域の資源が届きやすい。職能集団を活用しやすく、協力関係を得やすい。健診から法に縛られない健康づくりに考え方をシフトし、非正規職員も含めて。法準拠型から参加型活動への考え方にシフトする。参加型健康づくり活動は生産性をあげる改善活動の考え方であり、従業員の気づかないうちに、意識せずに取り組むことが大切である。</p>
平成21年度	<p>議題</p> <p>1) 平成20年度 昭和工業団地における地域・職域連携モデル事業報告 「地域保健と職域保健との連携による「働き盛り」の健康づくりをめざして」 報告者 昭和工業団地協議会事務局長 荒瀬周児 氏</p> <p>2) 各委員からの報告と意見交換</p> <p>3) 郡山保健所の今年度の取り組みについて</p> <p>4) 講評 奈良県立医科大学地域健康医学教室 教授 車谷 典男 氏</p>	<p>◆33名参加 (H21.7.8)</p> <p>奈良医大 車谷教授講評(概要) 昭和工業団地の取り組みはすばらしい取り組みである。健康づくりには、個人レベルと社会レベルの側面がある。また、歯科・心・心身の健康づくりなどがある。なぜ、健康づくりをするのかというと、①健康寿命を保つ、②社会的要請がある。</p> <p>日本は、2020年には高齢化率28%と超高齢社会となる。生涯現役を保つためにはどうするか。素因という個人差もあるが、若い頃からの生活習慣の積み重ねも関係する。</p>

<p>平成22年度</p>	<p>議 題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関係機関における地域・職域が連携した健康づくりの取り組みについて 2) 事業所への健康情報の提供について事務局からの提案と意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ立ち上げについての意見 ・コンテンツ内容 ・各機関で掲載できる内容 3) 心の健康づくりの普及啓発について <ul style="list-style-type: none"> ・啓発方法について 4) 講評 奈良県立医科大学地域健康医学教室 教授 車谷 典男 氏 	<p>◆17名参加(H22.9.17)</p> <p>奈良医大 車谷教授講評(概要)</p> <p>大企業、中小企業では従業員の健康管理のあり方が大きく違い、地域の資源を 職域に取り組み、地域全体でバックアップをするという趣旨で本協議会が立ち上がったと思う。</p> <p>3年前に比べたら、取り組みが随分進んだという印象がある。特に、昭和工業団地協議会の取り組みが進んだ。保健所や保健センターが各機関同士の接着剤 の役割を果たすことが必要。</p> <p>ホームページについては、内容にどんな工夫ができるかまたメンテナンスとして、定期的な更新やホームページ作成のノウハウをもった人がいるかどうかことが重要。魅力あるホームページを作成していくことが必要。</p> <p>また、情報発信だけでなく例えば、安全衛生委員会の場に保健所、市町村、医師会や地域の機関が参加し一緒に何か活動するなど具体的な活動も必要。</p> <p>メンタルヘルス対策は、どうしてもケース対応になりがちであるが、セルフチェックや職場風土、職場の雰囲気などがメンタルヘルス対策を強化している。</p> <p>ミニ旗での啓発はおもしろいアイデアであると思う。文面の検討が必要。また、啓発の効果进行评估する工夫が必要。例えば、職場の雰囲気や休職者の減少などを数値であらわすなど数値としてだせるもので結果を出すことが必要。</p>
<p>平成23年度</p>	<p>議 題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 昨年度からの取り組み報告 <ol style="list-style-type: none"> 1) 職域への保健所の取り組みについて 2) 協議会ホームページについて 2. 働き盛り世代の健康の現状について 3. 昭和工業団地協議会の健康づくりの取り組みについて 4. 働き盛り世代の健康づくりの取り組みの検討(グループワーク) 「肥満予防」と「事業所での禁煙・分煙対策の推進」 5. 講評 奈良県立医科大学地域健康医学教室 教授 車谷 典男 氏 	<p>◆18名参加(H24.3.8)</p> <p>奈良医大 車谷教授講評(概要)</p> <p>今までの協議会では、委員からの取り組み報告が多かったが、具体的な取り組みの検討や協議の場とするため、今回はテーマを設定してグループワークを取り入れた。委員から出された具体的な意見をもとに、保健所として関連する事業の中でどのように取り組みを進めていくかを今後検討していくことが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職域連携を実施している中で、継続した積み上げができていない ・管内の事業所など職域の現状把握ができておらず、取り組みをおこなったことに対する評価が十分にできない。

平成24年度	<p>議 題</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康日本21(第2次)及び第2期奈良県食育推進計画の推進について～働き盛り世代の健康づくり～ 働き盛り世代の健康の現状について 郡山保健所管内事業所給食施設での健康づくりの取組状況について～特定給食施設栄養管理報告書から～ 事業所における健康づくりの取組事例について(歯科・たばこ対策の取組事例紹介) 昭和工業団地協議会 荒瀬 事務局長から取り組み紹介 検討協議・情報交換 「働き盛り世代の健康づくりのためにできること」 講評・助言 奈良県立医科大学地域健康医学教室 教授 車谷典男氏 	<p>◆18名参加 (H25. 2. 25) 奈良医大 車谷教授講評(概要) 健康日本21(第2次)では10年後にめざす姿が示されており、これが全てであるが、1次との大きな違いはソーシャルキャピタル(社会資源)である。個人で出来ることは少ないので、個人の努力に任せるのではなく、行政や企業の取り組みが重要な役割を担うということ。 歯科保健については法整備もされたので今後上手く進めば良い。予防歯科にシフト。受動喫煙はいろんなリスクを高めるので減らしていきたい。 〔健康づくりの取り組みは楽しくないと長続きしない。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●キーパーソンを見つけてつなぐ。核となる組織、保健所などが実施する。 ●手を変え品を変える。飽きさせないようにアイデアを出し合う。 ●協働作業を進める。
平成25年度	<p>議 題</p> <ol style="list-style-type: none"> 県健推課実施の職域でのがん検診実態アンケート調査について がん検診の受診状況①(管内市町村) がん検診の受診状況②～全国健康保険協会奈良支部の状況～ 生活習慣病発症予防のための食育～奈良県の現状～ 検討協議・意見交換(グループでの話し合い) ・がん検診受診率向上のため、他機関と具体的に協力できる内容について検討 講評・助言 奈良県立医科大学地域健康医学教室 教授 車谷典男氏 	<p>◆24名参加 (H25. 8. 29) 〔奈良医大 車谷教授講評(概要)〕 職域の場としては、対象者に色々な機会に予防活動を行うことができるため良いと思われる(職域を予防活動に活用すべき。) 職域として、事業所の規模等にも意識しながら働きかけを考える。 市町村の役割などを考え、事業所や医師会、商工会・会議所などとの連携が必要。 職域での定期健診はがんを想定したものではない。大企業では、一斉に健診しているが、がん検診については、どのがんを見るのか考えていくことが必要。 職域では(事業主や対象者には)がん検診の意向が伝わりやすい。 企業側の自己負担を少なくしていくことも考えていくことが必要かと思われる。</p>
平成26年度	<p>議 題</p> <ol style="list-style-type: none"> 今年度の取り組み報告 <ol style="list-style-type: none"> 保健所 <ul style="list-style-type: none"> ・地域職域連携推進会議の経過・役割 ・各商工会訪問 昭和工業団地協議会 大和郡山市 全国健康保険協会奈良支部の取り組み(働き盛り世代の健康の現状について) 働きざかり世代の「食」からの健康づくり～奈良県の食の課題～ 意見交換「各関係機関の取り組みについて」 <ul style="list-style-type: none"> ・働きざかり世代の健康づくり・課題 ・他の関係機関と協働した取り組みへの提案 講評・助言 奈良県立医科大学 副学長 車谷典男氏 	<p>◆24名参加 (H27. 3. 19) 〔奈良医大 車谷副学長講評(概要)〕 健康増進、生活環境の改善、食事栄養状況の改善がすすみ、「何かひとつこれを実施すれば、劇的に成果が見える」という時代ではなくなった。たばこ、お酒、塩分、運動、いろいろ実施し、いろんな職種が関わる中で健康増進を進める時代。続けていくことで健康づくりの基礎ができる。地域・職域での健康づくりを推進するうえで、共通の目標をもつこと大事であり、奈良県では「健康寿命日本一」としている。 保健所の役割は、目標きちんとたてて地域に協力を求め、実効性あるための方法の交流の機会を確保すること。地域の課題とも共通しており、推進するために産業保健等、保健センターと協力し商工会単位で健康づくりすすめる。</p>

平成27年度 郡山保健所 地域・職域連携推進会議・食育ネットワーク会議及び 働き盛り世代の健康管理 特別講演会 概要

平成
27
年度

議 題

●「働き盛り世代の健康管理」をメインテーマに
開催

1 働きざかり世代の健康管理について～
生活習慣病の保健指導に関わる中でみえた健康
課題 ～

全国健康保険協会 奈良支部 企画総務部
森高 香代 氏

2 特別講演 ～「奈良県糖尿病診療実態調査」から
みた働きざかり世代の生活習慣病の課題と展望～
奈良県立医科大学糖尿病学講座教授 石井均 氏

3 意見交換 テーマ「生活習慣病重症化予防のため
に地域・職域でできること」

◆40名参加 (H28.3.24)

【地域】 管内市町村(3市4町1村)、保健所

【職域】 昭和工業団地協議会、北田原工業会、事業所、商工
会(斑鳩町)、商工会議所(生駒市)、県労働基準協会奈良支
部、全国健康保険協会奈良支部、加入事業所、奈良労働基準監
督署

【その他の機関】

医師会(大和郡山市、生駒地区)、栄養士会、食生活改善推
進員協議会

●全国健康保険協会奈良支部から事例をととした「働き盛り世
代の健康管理」における課題や対策について報告。→事業所の
健康に対する意識向上への取り組みを実施。

課題：健診受診率の向上、生活習慣改善、受診行動は難しい。
個人が自身で健康管理できるための意識づけを行う。

●糖尿病診療実態調査により、データからみえるエビデンス
が非常に有効で自分の体をしっかり見つめなおすこと、多様な
場面で話題を共有したり、続けられる指導を重ねていくこと。

本人の受診意欲向上のため本人主役の選択をサポートするこ
とや受診行動を含めて行動変容につなげるきっかけづくりを
行う。参加事業所の健康管理担当からは、「健診結果による
個人指導」「事業所によっては、利用者を含めた健康づくりへ
の取り組み」を実施していくとの発言も得られた。

●連携機関である商工会、医師会、歯科医師会、産保センタ
ー、健保協会、地域ボランティアなどの取組みを意見交換する
機会として「地域・職域連携推進会議」の意義がある。

郡山保健所地域・職域連携推進会議 関係機関

	所 属	TEL	〒	住所	
1	奈良県立医科大学 地域健康医学教室	0744-22-3051	634-0813	橿原市四條町840	
2	北和地区商工会広域協議会 (大和郡山市商工会)	0743-53-5955	639-1160	大和郡山市北郡山町185-3	
3	生駒商工会議所	0743-74-3515	630-0257	生駒市元町1丁目6-12 生駒セイセイビル3階	
4	天理市商工会	0743-62-1945	632-0016	天理市川原城町361	
5	生駒郡商工会広域協議会 (斑鳩町商工会)	0745-74-2500	636-0153	斑鳩町龍田南1-3-49	
6	奈良労働基準監督署 安全衛生課	0742-23-0435	630-8301	奈良市高畑町552 奈良第二地方合同庁舎	
7	社団法人 奈良県労働基準協会 本部 奈良支部	0743-56-2841 fax0743-56-2841	639-1188	大和郡山市筒井町800番地パナ ソニック〈株〉内 9:00~16:00 月水金	
8	北和地域産業保健センター	0742-33-5235	630-8031	奈良市柏木町519-7	
9	全国健康保険協会 奈良支部	0742-30-3700	630-8535	奈良市大宮町7丁目1-33奈良 センタービル4F	
10	昭和工業団地協議会	0743-56-0406	639-1188	大和郡山市筒井町800番地パナ ソニック〈株〉内	
11	大和郡山市医師会	医師会 0743-57-8743 fax0743-57-8763	639-1136	大和郡山市本庄町	
12	生駒地区医師会	医師会 0743-75-3535 fax0743-75-5188	630-0248	生駒市東新町1-3	
13	天理地区医師会	医師会 0743-62-2055 fax0743-62-2055	632-0016	天理市川原城町76カンパネラ 410号	
14	生駒・郡山歯科医師会				
15	山辺・天理歯科医師会				
16	奈良県栄養士会 北和支部				
17	食生活改善推進員連絡協議会 郡山支部				
18	郡山歯科衛生士会				
19	管内市町村	大和郡山市保健センター（さ んて郡山）	0743-58-3333	639-1136	大和郡山市本庄町317-2
20		天理市保健センター	0743-63-1001	632-8555	天理市川原城町605
21		生駒市健康課	0743-75-2255	630-0258	生駒市東新町1-3
22		山添村保健福祉センター	0743-85-0045	630-2344	山添村大字大西1395-1
23		平群町健康福祉センター	0745-45-8600	636-0914	平群町西宮2-1-6
24		三郷町保健センター	0745-43-7324	636-0812	三郷町勢野西1-2-1
25		斑鳩町保健センター	0745-70-0001	636-0142	斑鳩町小吉田1-12-35
26		安堵町福祉保健センター	0743-57-1590	639-1061	安堵町東安堵853